

## 研究室紹介

### 農山村はソーシャル・イノベーションの源泉

同志社大学 総合政策科学研究科  
ソーシャル・イノベーションコース  
大和田順子

2021年4月から同志社大学 総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコースに着任し、京都暮らしを始めました。東京生まれ育ちで、東京以外に住んでことがありませんでしたので、京都での暮らしは日々新鮮な驚きに満ちています。上京区に住んでいますが、街の真ん中でホテルを見ることができます。堀川を住民参加型で親水空間に改修・整備し、その後住民らがカワノナを放し毎年6月にはホテルが舞うようになったそうです。お香のお店、醤油蔵、西陣織の工房や町屋など、生業が街の景観を形成しています。住まいから自転車で10分ほどに大学のキャンパスと研究室のある志高館があります。志高館の隣は京都五山第二位、臨済宗相国寺派の大本山である相国寺、境内の美術館では伊藤若冲の屏風絵などを観ることができます。

#### ソーシャル・イノベーションコース

総合政策科学研究科は、1995年の設立以来、1,368名の修士と175名の博士を輩出(2021年3月現在)してきました。前期課程には「政策研究コース」と「ソーシャル・イノベーションコース」(以下、SIコース)があります。SIコースは「公共・企業・市民社会の各セクターを横断してソーシャル・イノベーションに寄与する実践能力を兼ね備えた起業家や行動型研究者を養成」しています。SIコースは2005年に設置され、生涯を通して学び続けること、何歳からでも学び直せること、自らが

取り組んできた社会課題解決活動を理論化するなどリカレント教育を重視してきました。公務員、NPO・NGO、社会起業家など多彩な経歴を有する人々が学んできました。社会人が多いことも特徴です。

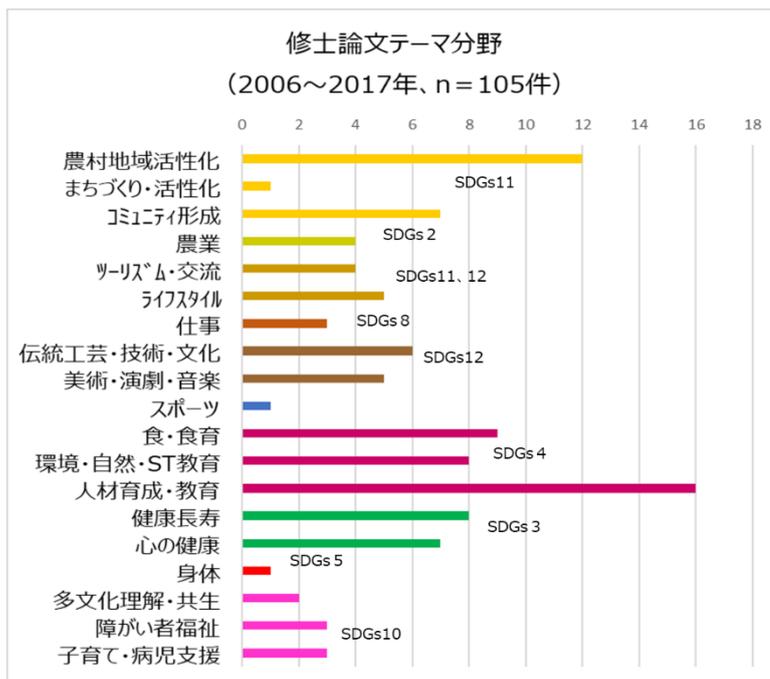


同志社大学の建学の精神は、キリスト教主義に基づく「良心教育」にあります。創始者の新島襄は、「良心之全身ニ充滿シタル丈夫(ますらお)ノ起コリ来タラン事ヲ」という言葉を残しています。良心に基づき実際に社会を刷新していく人材を育成することがSIコースの使命といえるでしょう。

SIコースを創設した新川達郎氏と今里滋氏は2021年3月に退官されましたが、今里氏は「ソーシャル・イノベーターとは、いわば、社会的価値を創造するパッションとアクションのセットを自らデザインしていけるような人材」と表現しています。社会の課題に果敢に挑戦する市民を育成すること

が同志社の SI コースなのだと思います。

右図は、2006～2017年に SI コースを修了した修士論文テーマを分類したものです。各分野に SDGs の目標を紐づけてみました。人材育成や食育・環境教育など質の高い教育（目標 4）に関するもの、有機農業、中山間地域の活性化、コミュニティ形成など持続可能なまちづくり（目標 11）に関するテーマが多いこと、また、京都らしさを反映し、伝統工芸や文化も研究テーマになっていることが特徴です。



筆者調べ

### 世界農業遺産と SDGs

筆者の研究テーマは、一つは「世界農業遺産の枠組みと SDGs の視点を農山村振興にいかにかすか」ですが、P2M 学会誌に投稿した論文等を踏まえ、学位論文「SDGs 時代における世界農業遺産の役割に関する研究」にてモデル化を試みました。そのモデルを各地の農林漁業や農山漁村に当てはめることで、その地域固有の農林漁業システムが浮かび上がると考えています。農山村はソーシャル・イノベーションの源泉です。

京都でもフィールドワークを開始しました。例えば長岡京市や向日市など乙訓（おとくに）地区は質の高いタケノコの産地として知られています。“竹の径”と名付けられた美しい景観があります。竹は工芸や建築の素材でもあります。竹産業者、竹の研究者、建築の専門家や市民らによる再生・保全活動も行われています。竹林を SDGs や農業遺産の枠組みで整理し、今後のビジョンづくりを皆で行いたいと考えています。

二つめのテーマは福島復興です。市民らが中心となり、原子力災害の被災

から、復興の地域づくりとして綿の有機栽培に取り組んできました。持続可能な地域づくりの核となる NPO や団体が継続して誕生し、それらをネットワーク化したプラットフォームが形成されようとしています。この取組にも P2M の理論を適用し支援しています。今後は関西の大学生らを対象にした東北に学ぶスタディツアーも実施したいと考えています。

ぜひ、京都にお越しの際にはお声がけください。京都の SDGs ライフをご案内させていただきます。

連絡先 Eメール

[jowada@mail.doshisha.ac.jp](mailto:jowada@mail.doshisha.ac.jp)

### 参考資料

大和田順子「京都ならではの都市農村協働 一和蠟燭、竹林を事例に」(同志社大学政策学部、政策最新キーワード、2021年6月)

<https://policy.doshisha.ac.jp/keyword/2021/new.html>

(2021年6月14日 受理)